

		①民間児童クラブと放課後児童クラブ（放課後子ども総合プラン）の実績と令和11年度目標の数字を見ると、民間児童クラブをととても増やす計画ですが、保護者の1人として私の感覚では、保護者の多くは放課後児童クラブを希望しています。 フルタイムで働く人が増えているという資料もありました。「本当は放課後児童クラブに入りたいがお迎え時間に間に合わないから利用できない」という保護者の声をきちんと聞いてください。放課後児童クラブの充実・拡充が必要です。	②乳児等通園事業（こども誰でも通園事業）について、アンケートにもあったように待機児童がいる状況で、小規模園を3園増やしただけで入園を希望する全ての子どもが入園でき、就労していない保護者の子どもも誰でも入園できるようになるとは思えません。見積もりが甘いのではないのでしょうか？ また、現在行っている一時保育との関係性はどのようにになりますか？
①	担当課	子育て支援課	こども課
	回答	放課後の児童の預かり先として、児童の適切な遊び及び生活の場を提供する公立放課後児童クラブを設置するとともに、多様なニーズに対応し特色あるサービス提供を行う民間児童クラブに運営補助を行うことで、市全体の放課後の児童の預かり先の充実・拡充を図ってまいります。	乳児等通園事業（こども誰でも通園事業）は、現行の保育園・幼稚園の利用制度とは別に、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付事業であり、0～2歳の子どもが必要に応じて利用できるよう、順次体制を整備していくことを想定しております。そのため、国が定める月の上限時間数に基づき算出した必要時間数に、本市で過去に一時預かり利用の最も多かった年度の利用割合を乗じて、見込み量を算出しております。 現行の一時預かり事業が、「保護者の立場からの必要性」に対応するものであるのに対して、こども誰でも通園制度はこどもの育ちを応援することが主な目的です。また、一時預かり事業は「事業」である一方、乳児等通園事業は令和8年度から「給付制度」として実施するものです。

③補助教員の配置数 令和5年度実績 62人→令和11年度目標 実施 となっていますが、「だれ1人取り残さない」と教育長も掲げているのです から、少人数学級や少人数指導など、児童生徒に寄り添った教育ができるよ う増員が必要だと考えます。増員した目標の設定をぜひお願いします。	④不登校児童等への支援について、 日進高校での不登校対応の中高一貫教育が始まると新聞などで聞いていま す。日進市との連携は記載がありませんがどのようなになるのでしょうか？
学校教育課 市費講師につきましては、状況に応じて必要な教員を配置しており、引き続 き同様に対応してまいります。 教員不足を解決するためには、配置定数を見直す必要があり、文部科学省へ 本市教育現場の現状を含め、定数の見直しを要望してまいります。	学校教育課 県の方針に基づいて連携・協力し、対応してまいります。

⑤日進市ひとり親家庭等手当について、 子どもが18歳になる年度末まで受給できるように条例を戻してください。	⑥保育園の通園区域を設けないことから全体での需給調整が可能となる「市全域」を一つの単位として設定しますとありますが、赤池から三本木保育園まで通園することは保護者にとって大きな負担です。また、子どもは地域と一体となって育てる方が良いと考えることから、市全域を1つの単位として設定することは不適當だと思います。
子育て支援課 ひとり親家庭等支援事業につきましては、資格取得等といった経済的自立の支援を図る事業や、子どもの生活・学習支援事業等の充実に努めてまいります。	こども課 保護者の勤務地によっては、通勤経路に近い保育園を選択される場合もあるため、市内全域を一つの保育提供区域としており、通園区域を設けておりません。いただいたご意見は、今後の保育行政の推進に向けての参考にさせていただきます。

②		1. 以前、日進市の保育施策について、国民に知らされている国の方針や通知に従っていないことを指摘したが、「国の方針などは協力要請であるため協力であるため、協力しなくても違法にならない」といった見解が示され、建設的な話し合いすらも拒絶されたことがある。本計画の最後には、行政だけでなく家庭や地域社会等の連携、協力が必要であることを掲げているが、肝心の行政が、基本方針を出している国の協力要請に対して、従わなくても違法ではない、という見解を示し、市民との対話を拒絶する姿勢では、子ども子育て支援事業計画の根幹が揺らいでしまう。 子ども子育て支援事業に関わる施策について、国の方針等の準拠が示された指摘がなされた場合は、地方自治の裁量権を振りかざして指摘を無視するのではなく、協力的、建設的な話し合いを行うように努めて欲しい。	2.市民人口が増えているにも関わらず、低年齢の人口が減っていることは、国全体の少子化現象があるとはいえ、端的に、日進市の子育て環境が良い評価を得ていない可能性もある。市外から移住し、他の市町村と子育て環境を比較してみると、住む地域に近い保育園に入園できないことや兄弟姉妹が別園になること、放課後クラブの少なさ、行政に相談したときの対応が突き放すようなものであることなど、身寄りのない市外から働きつつ育児ができる環境として、良い市であるとは言い難い。 住宅地の開発などを行っている地域と、そうでない地域では、保育園や放課後クラブなどの利用数も違うのは利用者からすれば考えるまでもなく分かることだが、日進市の方針は市全域で捉えてしまうため、保育園の定員を一律で減らすなど、施策上の失敗と受け取れることを行った悪しき実績もある。これらのことから、日進市で子育てをしようという子育て世帯が他市他県からの移住を見合わせることもなっている可能性もある。「子育て環境の満足度」を見ても、就学前は、前回より満足度が低いとされる1,2が24.4%から29.1%と5%近く増え、逆に、満足度が高い4,5は、35.5%から27.2%と下がり、満足度が低いと答えた人よりも下回ってしまった。このことは、日進市への移住による人口増加を考えると、これまでの施策がうまくいっていないか、子育て世代の移住者の不満が高いということを示していると考えられる。この結果は重く受け止め、各地域における住民の変化に応じて柔軟な施策を行うよう考えていただきたい。 認可保育園や児童クラブなどを新設するには時間も予算もかかるが、他の市でも試みられているように、定員が比較的余裕のある保育園や児童クラブへはバス送迎をするなど、利用者の負担が少なくすることをもう少し考えるようにすれば、子育てのしやすい市となり得るのではないだろうか？
	担当課	子育て支援課・こども課	子育て支援課・こども課
	回答	国の方針等を注視し、保育施策の充実に努めてまいります。	アンケート結果を踏まえ、子育て環境の充実を検討・推進してまいります。

3.教育・保育事業等の提供区域について、市域がコンパクトであることを理由に通園区域を設けていないことは、住居から遠い保育園に通うことになる困難さを想定していないと思われる。経済上、身体上の都合で自動車等による通園ができない利用者にとっては、住居から遠い保育園に通うことは困難である。そのため、徒歩圏内で通う利用者に対して、他市も行っているように入園に関する加点を行うなど検討すべきではないだろうか？ あるいは、通園バスを導入するなどし、平等に教育・保育事業等を利用できるようにするなど、利用者の視点を持った施策を期待する。 この市域をコンパクトというのは、自動車等を利用することが前提としすぎではないだろうか。職場などであればまだ理解できるが、教育・保育事業等となると、徒歩を前提として考えるべきに思える。歩いてすぐの保育園に通えず、徒歩で1時間以上かかる保育園にわざわざ通うのは就労にも支障をきたし、また子どもだけで移動するときにもわざわざ危険を生じさせている。	
こども課	
保護者の勤務地によっては、通勤経路に近い保育園を選択される場合もあるため、市内全域を一つの保育提供区域としており、通園区域を設けておりません。いただいたご意見は、今後の保育行政の推進に向けての参考にさせていただきます。	

③		①「計画作らなきゃいけないから作ってます」という最低限度の印象を受ける。64歳以下の人口が市民の8割を占め、こども人口も増加しているのに子育て環境満足度は低下している。人口増加とアンケート結果を反映しているとは思えない計画案で、市としてこども施策にやる気のないことが露呈していると感じる。近隣の長久手市やみよし市、豊田市等独自の子育て支援を打ち出す自治体が多い中、独自施策0で、とにかく質より量といううすっぺらさが際立っている。	②令和7年4月からの計画に対するパブコメを令和7年1月～2月に実施したところで、既に予算取りも終わっており、3月議会の開催日程を勘案するとパブコメの意見を計画に反映することは不可能と思われる。「パブコメを実施してちゃんと市民の意見を聞きましたよ」というアリバイ作りに過ぎないのでは。
	担当課	子育て支援課	子育て支援課
	回答	本市の人口状況や近隣市の施策等を注視し、子育て環境の満足度の向上に繋がる施策の検討に努めてまいります。	本計画は、有識者や市内の児童福祉団体、公募による市民代表等で構成される日進市子ども施策推進委員会にその内容を諮り進めてまいりました。パブリックコメントでいただきましたご意見等につきましては、今後事業を進めていくうえで参考とさせていただきます。

③保育事業等の提供区域として市全域を通園区域としているが、無理がある。特に赤池地区に住む人の多くは「駅近で保育園も小学校も徒歩10分圏内」という条件に惹かれて転入してきているのに、他学校区の保育園に割り当てられては堪らない。市全体での需給調整ではなく地区ごとに需要を満たすことを考えてもらいたい。	④保育園・小学校とも人口推計上過不足は生じないとされている。赤池地区では高層マンションが次々建設されており、香具山地区も区画整理中で、今後ますます人口増加が見込まれるが、急激な人口増加に耐えうる計画となっているのか疑問である。
こども課	子育て支援課・こども課
保護者の勤務地によっては、通勤経路に近い保育園を選択される場合もあるため、市内全域を一つの保育提供区域としており、通園区域を設けておりません。いただいたご意見は、今後の保育行政の推進に向けての参考にさせていただきます。	本計画は直近の人口の推移と施設の状況等を踏まえた計画となっています。なお、本市の人口は近年増加傾向にありますが、今後は人口減少傾向になる見込みがあるため、計画期間中の状況変化については、計画期間内の中間見直しにて対応してまいります。

⑤放課後児童クラブについては民間事業者による開設を進めるとあるが、公設児童クラブの利用時間拡大を検討してもらいたい。公設クラブを利用したくても利用時間が18時までのため仕方なく民間クラブを利用している現状があることを市は理解しているのか。他市のように公設クラブの利用時間を18時30分までに延長することを強く求める。公設クラブと民間クラブのどちらを選択するかはそのサービス内容によって検討されるべきで、民間クラブの経営面への影響を理由に公設クラブの利用時間を制限するべきではない。	⑥子ども・子育て支援事業計画という名のわりに、乳幼児・未就学児を持つ親向けの施策がほとんどで、かろうじて小学生向けの学童保育のことしか記載がない。こども達本人の目線が感じられず、こども達に取ったアンケートが計画立案に影響したのか不明。アンケートを取るだけ取って何も反映していないようにみえる。
子育て支援課	子育て支援課
公立放課後児童クラブ、民間児童クラブの両輪でニーズに対応しているところですが、公立放課後児童クラブの利用時間につきましては、市内の利用状況や他市の状況等を注視し、検討してまいります。	今回実施したこどもへのアンケートは、施設の整備や各事業の内容策定に参考とさせていただきましたが、今後の施策検討の際にも活用してまいります。

⑦子育て支援団体へのヒアリングについては[アンケート・ヒアリングからの意見]として抜粋して紹介しているのみで、集約結果が示されていない。こども達へのアンケート同様に、アリバイ作りとしてヒアリング実施しただけに見える。	⑧小学生になると一気に何の支援もなくなるように感じる。学校の先生は勉強しか見てくれないし、困りごとは全部家で解決してくださいね、と突き放されているよう。小1の壁に対する施策も検討してほしい。
子育て支援課	子育て支援課
今回実施した事業所へのアンケートにつきましては、各事業の内容策定の参考とさせていただきますが、今後の施策検討の際にも活用してまいります。	学校との情報共有や地域学校協働活動等の事業推進、相談体制の整備など、保護者や児童への支援の充実に努めてまいります。

⑨都市環境の整備について。公共施設に必要な応じて多目的トイレや授乳室を設置、とあるが全公共施設においてトイレの洋式化を進めてもらいたい。とくに公園は和式トイレしかないところが多い。複数の個室のうち一つだけを洋式にすると、和式を避ける人が多い（こどもだけでなく高齢の方も嫌がる）ので行列ができる。和式を全廃する方向ですすめてほしい。	⑩子どもの権利侵害に関する対応について。こどもの権利学習プログラムは実施しないのか。近隣の豊田市では小・中学校全校に毎年実施している。こどもの権利ノートを作成し、こども全員に権利学習をする必要性があるのでは。
子育て支援課（都市計画課 整備する予定はないと確認）	子育て支援課
公共施設のトイレの洋式化については、施設の整備計画等に基づき検討してまいります。	本市では、11月の子どもの権利月間にこどもの権利について啓発を実施していますが、学習プログラムを始め、他の事例を調査し、検討してまいります。

⑪児童虐待の発生予防の推進について。児童虐待を防ぐための教育は実施しないのか。近隣の豊田市では未就学児・小中学校・特別支援学校・教職員・保護者に対して毎年ＣＡＰプログラム（こどもへの暴力防止のための予防教育プログラム）を実施している。	⑫「５ 本市の子ども・子育てを取り巻く課題」の中でこどもの新しい居場所創出が必要、と記載されているが計画案のなかに具体策がない。アンケート結果を活用してこども達が求める場を検討してもらいたい。
子育て支援課	子育て支援課
虐待予防教育につきましては、学校との連携を図る中で検討してまいります。	こどもが安全に過ごせる居場所の創出について、検討してまいります。

		第2章1（2）子どもの人口の推移（P. 11） ・日進市全体の子どもの人口推移が記載されていますが、日進市内でも子どもの人口の地域差が激しいため、全体の平均で計画を考えるのではなく、地域特色に合わせた計画を考える必要があると思います。地域ごとの推移を把握し、計画を立ててください。	第2章2（3）①子育て家庭の状況（P. 17） ・子育てをしている父親の少なさに驚きを隠せません。子どもの年齢に関係なく、「父母ともに」の割合を9割に増やせるような施策を早急に考える必要があると考えます。
④	担当課	子育て支援課	子育て支援課
	回答	各学校ごとに利用地域が区分されているような放課後健全育成事業につきましては小学校区ごとに検討しており、他の市内全域を一つの単位と設定している事業につきましては、市全体のこどもの人口推移を元に検討しています。	父親の育児に関する研修や情報提供を充実させる等、検討してまいります。

第2章2（3）④放課後の過ごし方（P. 22） ・小学校の近くの公園は、放課後になると児童であふれかえります。見守っている保護者の数は少なく、事件事故災害時の対応に不安を感じます。せっかく学校に「放課後子ども教室」があるのにも関わらず、利用されていない理由を分析し、改善する必要があると感じます。民間企業や大学等と連携などをし、児童が魅力的に感じる場の提供を希望します。	第2章3（1）居場所について（P. 24） ・居場所として感じる場所を、小学生も中高生も「自分の家」と回答する子が多く、この状況を改善する必要を感じました。また、自宅以上に長い時間を過ごす「小学校」と「放課後等デイサービス」を選ぶ子の少なさにも改善策を考える必要があると感じました。
子育て支援課	子育て支援課
環境整備を始め、児童が放課後に安全に楽しく過ごせる事業の検討等、より利用しやすくなるよう検討してまいります。	より多くのこどもが居場所として感じられる場所となるよう、地域学校協働活動を始め小学校や各事業所等と連携して運営方法の改善等を検討してまいります。

第2章3（2）将来について（P. 25） ・「大人になってからも日進市に住みたいと思いますか」の質問にたいしての回答「とても住みたいと思っている」が26％と低いのはとても残念ですし、子どもたちの正直な回答だと真摯に受け止め、改善するの必要を感じます。しかし、これを改善できるような施策が計画の中に見受けられませんでしたので、早急に検討してください。	第4章 基本目標1個別目標3（P. 37） ・放課後児童クラブの利用時間の拡大を希望します。近隣市（名古屋市、長久手市、豊明市、豊田市）の利用時間にあわせて午後6時30分まで拡大してください。現在の放課後児童クラブの利用時間が午後6時までのため、利用したくても利用できない状況です。そのせいで高額な民間児童クラブしか選択できません。市民生活に寄り添った放課後児童クラブの運営を求めます。 ・保育園には、園児を安全に保育するために保育士の配置基準があり、それに基づいて管理・運営されていますが、放課後児童クラブや子ども教室はいかがでしょうか。個別目標には「適切な管理運営」とありますが、何を基準に適切と判断して管理運営をしているのでしょうか。日進市として基準を明確にし、子どもたちが安全に過ごせる場所の提供を求めます。
子育て支援課	子育て支援課
今回のアンケート結果を各課で情報共有し、計画策定、事業展開の際に、より満足度が向上するよう検討してまいります。	公立放課後児童クラブ、民間児童クラブの両輪でニーズに対応しているところですが、公立放課後児童クラブの利用時間につきましては、市内の利用状況や他市の状況等を注視し、検討してまいります。 放課後児童クラブは、放課後児童支援員の配置基準に基づき施設運営しています。なお、子ども教室には支援員の配置の基準はありませんが、児童が安全に過ごすことができるよう引き続き施設運営に努めてまいります。

第4章 基本目標1個別目標4（P. 38） ・父親向け子育て講座では、よりリアルな内容での講座を求めます。出産が命懸けであること、必ずしも母子ともに健康とは限らないこと、産後は心身に満身創痍であること、産後うつで自ら命を絶つ母親が毎年多くいることを題材として取り扱い、育児をする父親を増やしてください。また、土曜日開催ではなく、企業への協力を求めた上で平日に休みを取って参加するようしてもいいと感じました。母親ばかりが仕事を休んで子どもの行事等に参加しています。父親だけを優遇する必要を感じません。子どもが生まれる前から子どものために父親が意識を変える必要があると思います。 ・父親向け子育て応援事業の周知では、父親の育児休業制度に関する事業を周知とありますが、まずは日進市役所男性職員の1年以上の育休取得率100%を目指してください。そして育休取得者数を公開してください。行政が変わらないと民間企業も変わらない（変えられない）と考えます。管轄が別部署であれば、担当課へ情報提供をしてください。	第4章 基本目標3個別目標3（P. 46） ・未就学児期は、さまざまな相談先があり、いつでも相談できる安心感がありますが、小学生になったとたんに相談先がわからなくなります。相談先が存在するのであれば、周知に力を入れてください。入学説明会などで資料配布や学童にポスター等の設置をしてください。ないのであれば、相談先を新設してください。 私は小学校1年生の1学期に相談したいことがたくさんありました。学校でのこと、友達とのかかわり方、家での過ごし方、勉強のこと、発達のこと、成長（からだの）のことを相談したかったです。管轄が教育委員会なのであれば担当課へ情報提供してください。
子育て支援課	子育て支援課
父親の育児に関する研修や情報提供を充実させる等、父親の意識改革に向けた取り組みについて検討してまいります。日進市役所男性職員の育休取得に関しては、人事課と連携してまいります。	こども家庭センターを令和6年度に設置し、妊娠婦、保護者、こどもからの相談を承っています。より多くの方にご利用いただけるよう周知に努めてまいります。また、教育委員会に情報提供してまいります。

第4章 基本目標4個別目標2（P. 49） ・子どもたちが安心して学校生活をおくれるように教室数を確保してください。また、要件ギリギリサイズではない広い校庭を用意してあげてください。全校生徒で運動会ができないことに違和感を抱きました。兄弟姉妹がいる保護者は2度参加する必要がありますが大変ですし、児童も兄弟姉妹の活躍を見ることができません。今狭い校庭や校舎で我慢させられている児童を不憫に思います。また、体育館にも同じことが言えます。運動会や学芸会は6学年が集まれる一大イベントです。他学年の活躍をモニター越しではなく直接見れる環境を整えてください。管轄が教育委員会なのであれば担当課へ情報提供してください。	第4章 基本目標4個人目標3（P. 50） ・ブックスタートはとてもいい事業で当時とてもうれしかったです。本屋にはたくさんの素晴らしい絵本がありますが、初めての育児ではどの絵本を選んだらいいのかわからず当時困っていました。また、0歳の赤ちゃんのために税金が使われていることに嬉しく感じました。
学校教育課	健康課
学校施設につきましては、児童生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう整備に努めております。 学校行事の開催方法等につきましては、保護者の意見を反映できるよう学校と情報共有を図ってまいります。	今後も継続して行ってまいります。

第4章 基本目標6個別目標4（P. 64） ・ひとり親になってから支援を行うのではなく、ひとり親になるための支援から必要だと考えます。低所得や無収入を理由に、様々なDVから逃げられない人や離婚できない人がいます。辛い状況から逃げ出したい人を助けられる支援を整備してほしいです。DV被害者を減らせれば虐待被害者も減らせれると考えます。	第5章4（6）放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）（P. 81） ・提供量不足が見込まれる小学校に、赤池小学校がありません。赤池小学校の公設児童クラブの利用者は、少ない（足りている）のではなく、公設児童クラブの利用時間が短いため、そもそも公設児童クラブを利用したくてもできない状況です。保護者の勤務地が市外にあると、定時に仕事を終了しても午後6時までに学童へお迎えに行くことができません。公設児童クラブの利用時間を午後6時30分まで延長してください。
子育て支援課	子育て支援課
DV被害者や生活困窮者等が必要な支援につながるよう相談機関の周知に努めてまいります。	児童クラブの提供見込量は民間児童クラブと公設児童クラブの合算値による数値となりますが、今後も利用者の推移を注視してまいります。公立放課後児童クラブの利用時間につきましては、市内の利用状況や他市の状況等を注視し、検討してまいります。

第5章4（18）産後ケア事業（P. 102） ・乳児家庭全戸訪問事業で、産後ケア事業のPRをしてください。産後1年未満は心身共に手厚いケアが必要です。産後当時の私の精神状態はギリギリでした。他市から引っ越してきたため、周りに頼れる親族も友人もおらず、配偶者の帰宅時間は遅く、相談したくても相談先を調べる気力が湧かず毎日疲れ果てていました。外出と他人との交流機会が減り、あっという間に心がすり減っていきました。助けが必要な人に情報がきちんと届くように、この事業についての紹介を産婦に限らずしつこいくらいに広くおこなってください。	第6章2 計画の公表及び周知（P. 107） ・「広く市民に計画の趣旨等がわかりやすく伝わるよう努めます。」とありますが、努めておられますでしょうか。私は、日進市に約10年住んでおり、7歳になる子どもがいますが、日進市の子ども・子育て支援事業計画について知りませんでした。今回のパブリックコメントは友人に教えてもらいました。子育てに関する市役所の取り組みは、日ごろから感じておりません。日進市と日進市長は、子育てに力を入れておらず、感心も低い印象を個人的に持っています。こんなにしっかりとした長期計画を立てておられるのであれば、しっかりと周知するべきですし、子育て世代だけでなく様々な世代の意見を募集するべきだと考えます。また、パブリックコメントの募集時期は適切でしょうか。計画は、令和7年4月から始まるのに、パブリックコメントの募集開始日は令和7年1月21日です。せっかく意見を書いても令和7年4月から間に合うのでしょうか。それとも間に合わせる気も、検討や採用する気もなく、予定以上の予算をつける気もないため一応建前上募集しているだけなのでしょうか。パブリックコメントの募集方法・時期の見直しを行ってください。
健康課	子育て支援課
産後ケア事業の周知につきましては、市ホームページや子育てアプリのほか、母子健康手帳交付時、妊娠8か月訪問時、新生児訪問時にはチラシ等を活用し周知しています。また、個々の状況に応じて医療機関と連携し随時活用できるようご案内しております。今後も、必要な人が利用できるよう周知してまいります。	子ども・子育て支援事業計画が子育て世帯の方々のみならず、多くの人に知っていただけるよう周知に努めてまいります。また、パブリックコメントの募集方法・時期の見直しにつきましては、今後の参考とさせていただきます。

3 計画の評価と進行管理 ・日進市子ども施策推進委員会の周知を広くおこなってください。委員の存在、目的、活動内容を今回の計画資料で知りました。今年度の議事録を読み、鋭い指摘と分かりやすい意見を発言される委員が複数人いることを知り、日進市の子育て環境に対して熱意をもって考えて下さる方がいることに安心しました。しかし、議事録や委員会の実施日等の情報発信について工夫と改善の必要性を感じます。委員会の名前を知らないとホームページにたどりつけません。早急に改善してください。	その他 ・道の駅を子どもたちが利用しやすいようにしてください。日進市には、他市のような子供向けの施設が少ないです。近隣市へ足を延ばせば様々な子供向けの施設がありますが、子どもたちだけで自転車で行ける距離にはありません。せっかく多額な税金を使って道の駅をつくるのであれば、子どもたちが自転車で遊びに行きたくなるような魅力ある施設にしてほしいです。管轄が別部署であれば、担当課へ情報提供してください。
子育て支援課	子育て支援課
日進市子ども施策推進委員会については、日進市の子育て施策等を検討する重要な会議であり、より多くの方に知っていただけるようホームページを検索しやすい手法を検討してまいります。	道の駅におけるこども向けの施設や事業の充実により、より多くのこどもや子育て世帯に利用していただけるよう道の駅の所管課と共に検討してまいります。

・全国の自治体が少子化を食い止めるために様々な施策や事業を計画し、民間企業等と協力し実施していますが、日進市はいかがでしょう。名古屋市地下鉄と名古屋鉄道の恩恵をうけ、近隣市からの転入者が多く、何もしなくても勝手に人口が毎年増えている状況ではないでしょうか。しかし、このままでは日進市の子どもたちが地元で愛着を感じないまま成長し、将来地元を離れてしまう可能性が高いです。計画資料２５ページの小学生向けのアンケート結果で「大人になってからも日進市に住みたいと思いますか」に対して、「とても住みたいと思っている」と回答したのはたったの２６％でした。将来の人口流出を防ぐための施策を早急に考え、子どもたちが地元で愛着をもてるようにしてください。	・社会問題にもなっている「小１の壁」についての施策がありませんでしたので新設してください。保育園は午後７時まで預けられるのに、小学生になると公設児童クラブは午後６時までしか預けられません。保護者は、子どもが小学生になると時短勤務を利用できなくなります。勤務地が小学校の近くでない限り、午後６時までにはお迎えに行くことができません。そのため、公設児童クラブの利用料金の数倍する高額な民間児童クラブを利用するか、離職するかの二択しかありません。もっと市民生活に寄り添った公設児童クラブの運営を検討してください。
子育て支援課	子育て支援課
こどもたちが地元で愛着をもてるよう、施策を検討してまいります。	学校との情報共有や相談体制の整備など、保護者や児童への支援の充実に努めてまいります。また、公立放課後児童クラブの利用時間につきましては、市内の利用状況や他市の状況等を注視し、検討してまいります。

⑤		・公立学童について、現状に18時から19時（＝名駅地区・豊田地区でフルタイムで働いている人が、定時退社しても迎えに間に合う時間）まで預け可能時間を見直していただきたい。もし公立学童の延長ができないのであれば、今後誘致予定の民間学童の費用を、コンテンツやプログラムを必要なものに限定しながら時間を19時までにし且つ安価にさせていただく等、費用面で不安を抱えていたり、会社の規定で時短ができないなどの事情を抱え時間面で融通が利かせづらい家庭が誰1人切迫することのないような施策の検討をお願いしたい ・私自身は、収入面での余力と教育方針への共感からあかいかの杜にお世話になり、現時点では困ってはいないが必ずしも収入面・労働時間等の労働条件で恵まれていない家庭や学童に教育要素をそれほど求めない家庭も周囲には多く存在しており、フルタイム勤務者を中心に民間学童しか選択肢がないことに対しての困りごとの声を水面下では多く聞いている。また子供が年長になって、初めて公立学童が18時までしか預けられないことに気づく父兄がほとんどであると想定。今回のパブリックコメントに声が寄せられていない潜在的な困りごとや年長未満の家庭はそもそもこの事態に気づいていないと想定されることから日進市としても、幅広く子育て・共働き世帯にヒアリングをしていただき、困りごとの吸い上げをお願いしたい	・保育園の「保護者会役員」の存続や意義について、 ・保育園の要請に基づき、保護者会が保育園の行事イベント企画や手続き、予算管理・費用回収、総会対応等 一連の業務に携わっているが、フルタイム勤務者も多くなる中で、任命された役員の負担が非常に大きい 家事育児の隙間や子供が寝た後の深夜に対応している家庭もあり、また土日の役員会や仕事を休んでの対応等もあり非常に不健全だと考える また会費の回収も、園とは別口座にしないといけない中で、現金回収をせざるを得ない、会費回収のために休んだり早上がりしている等、無理や無駄も多い ・更に負担が大きいのに関わらず、無報酬であり、見方によっては本来保育園職員が担う仕事の工数補填している位置づけにも捉えられ、共働き世帯が増えてきている中で、今後も保護者の理解を得られ続けるとは言い難い。 ・保護者会は、保護者による組織ではあるが、保護者が自律的・自発的に発足したとは考えづらく、元々は園や市の指導のもとで設立されていると理解している。 ・本件について、上記について市の見解をご教示および市民へ説明いただくとともに、各園・各小学校の保護者にヒアリングを頂き時代に合わせた保護者会の在り方を検討いただくことをお願いをしたい
	担当課	子育て支援課	こども課
	回答	公立放課後児童クラブ、民間児童クラブの両輪でニーズに対応しているところですが、公立放課後児童クラブの利用時間につきましては、市内の利用状況や他市の状況等を注視し、検討してまいります。なお、新規の民間児童クラブの事業内容に関しては、事前の相談段階で市の状況やニーズをご説明してまいります。	ご指摘の内容につきましては、子ども子育て支援事業計画の対象外の内容となります。